

温泉まちづくり研究会

温泉まちづくり研究会は、温泉地が抱える共通の課題について解決の方向性を探り、

各地の温泉地の活性化に資することを旨とする研究会です。

会員温泉地の関係者や行政担当者、有識者などが集まり自由闊達に議論し、

研究会で得られた情報や知見は、「提言」等にまとめ全国へ広く発信しています。

本研究会は2008年4月に設立され、現在7つの温泉地（北海道阿寒湖温泉、群馬県草津温泉、三重県鳥羽温泉郷、

兵庫県有馬温泉、愛媛県道後温泉、大分県由布院温泉、熊本県黒川温泉）を会員とし、

公益財団法人日本交通公社（事務局）の自主研究（公益事業）の一環として運営されています。

温泉地の環境対策を考える

「温泉地の環境対策」を通じて、
強靱で持続する温泉地を目指します

2019年末からはじまった新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を経て、旅行者の環境意識は高まったと言われています。特に近年ではZ世代といわれる若年層を中心に、日本でも環境への意識が高い層が注目されています。

これまでも会員温泉地では、SDGsやサステナブルを合言葉に、様々な環境に優しい取組みを進めてきました。しかし、来るべきポストコロナの社会において、国際的な競争力の高い温泉観光地へとさらなる発展を目指すためには、海外・国内の先進的な事例を学びながら、より戦略的に「環境に優しい取組み」を進めていくことが求められます。

このような背景から、第6ステージは「温泉地の環境対策」をテーマに活動を進めることとしました。

具体的には、1年目にあたる2022年度はインプット、2023年度は実践と検証、2024年度は発信とブランド化に取り組み、3年をかけて強靱で持続する温泉地に転換することを目指します。



2022年度の活動報告はこちらからご覧ください
2022年度 温泉まちづくり研究会 総括レポート

2022年度 | インプット

研究

国内・海外事例等の研究

会員温泉地への落とし込み

環境に関する会員温泉地の取組の共有

2023年度 | 実践・検証

研究

環境対策の見える化・発信方法の研究

会員温泉地への落とし込み

会員温泉地の取組の深掘り

会員温泉地の更なる推進方策の検討

2024年度 | 発信・ブランド化

研究

発信・内外認知度強化の研究

会員温泉地への落とし込み

会員温泉地の発信・内外認知度強化の実践体制の検討

世界を癒す、 日本里山の豊かさが 循環する温泉地へ

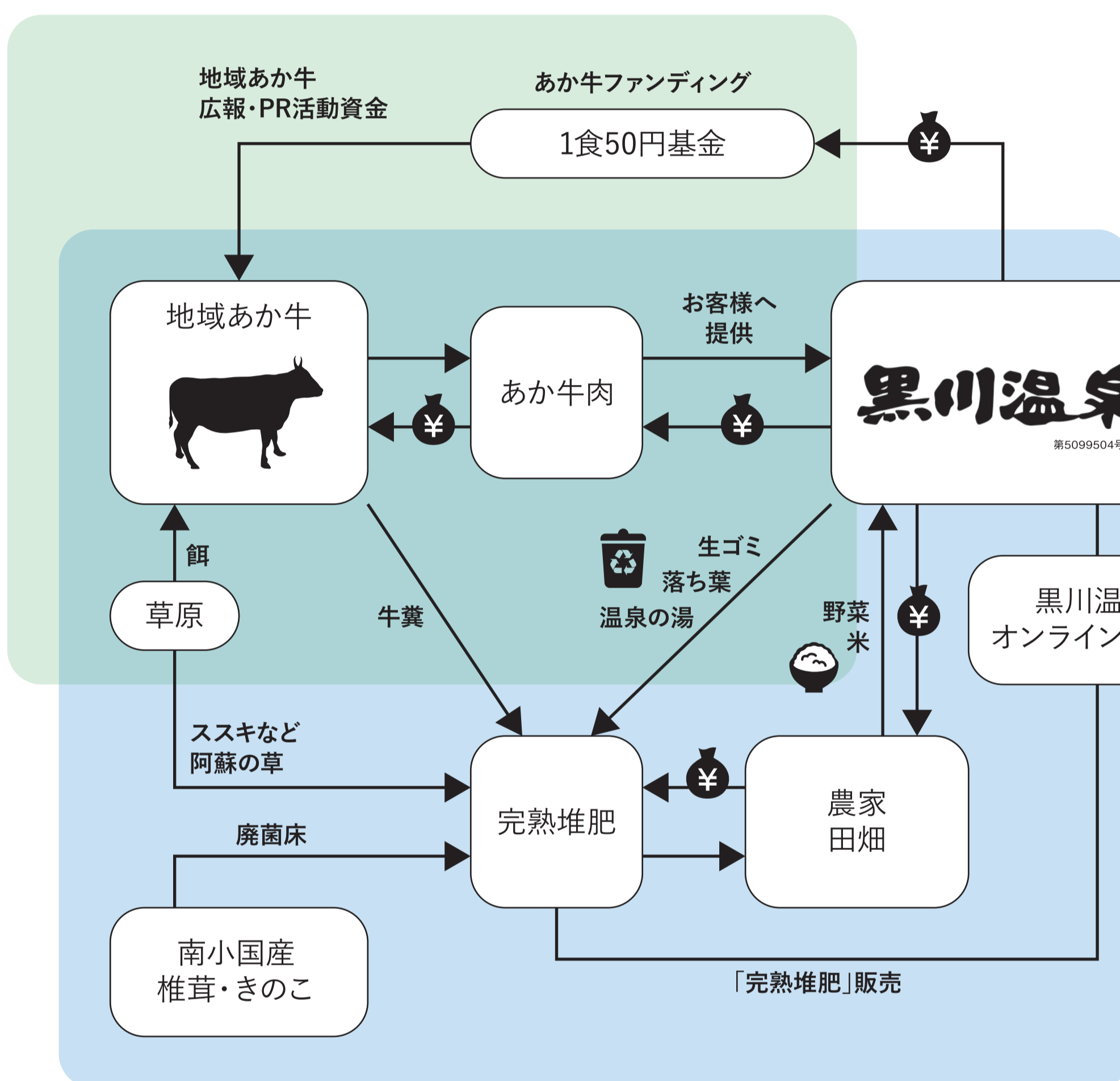
持続可能な「循環」型温泉地を目指す黒川温泉

熊本地震・コロナ禍という危機に直面した黒川温泉は、これからの黒川温泉はどうあるべきか、地域全体の持続可能性を高めるために何を行うべきかを地域で何度も話し合ってきました。その中で誕生したのが、「循環」を意識した「黒川温泉2030年ビジョン」です。

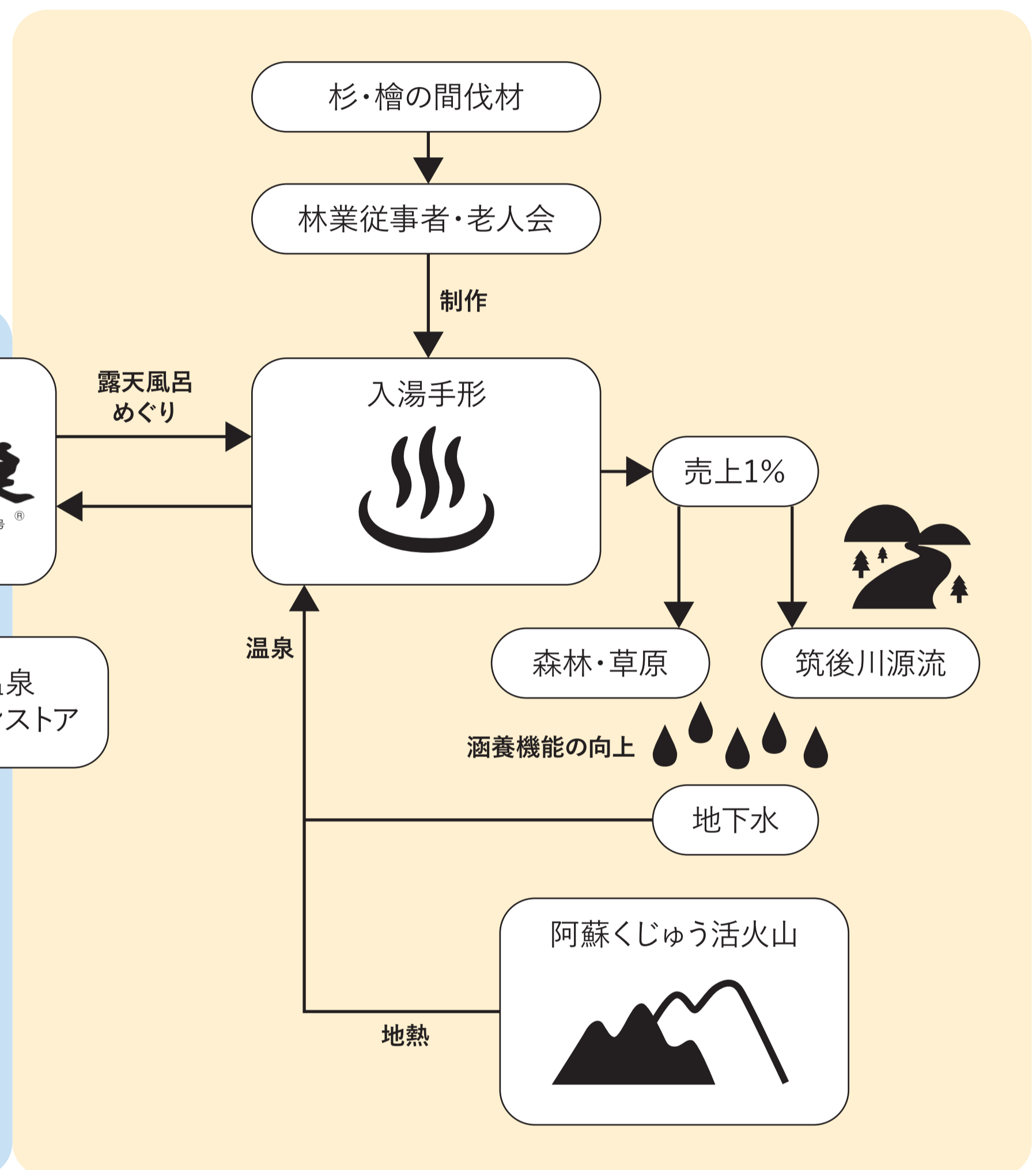
次世代に健全な状態で温泉地を引き継いでいくため、地域経済と地域資源の「循環」の実現を目指す黒川温泉の取り組みは、まだ始まったばかりです。

地域資源循環型モデルの潜在性

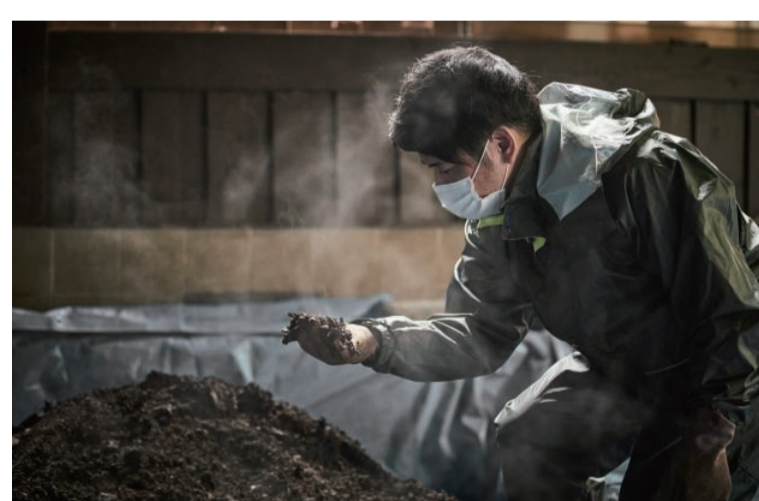
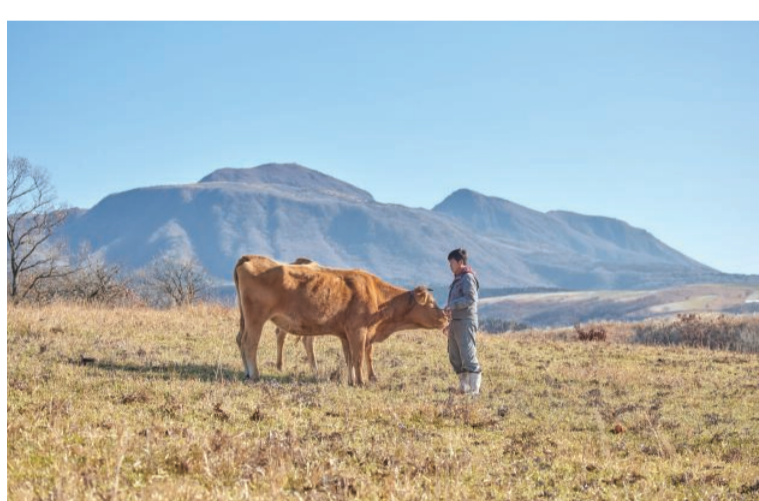
地域資源循環型プロジェクトA



地域資源循環型プロジェクトC



地域資源循環型プロジェクトB



次の百年を作る あか牛“つぐも”プロジェクト※

子牛の状態出荷されていたあか牛を地元で育て、ブランド牛としての地位を確立して旅館や飲食店に提供する。この取り組みは、一次産業の振興、旅館や飲食店の付加価値向上、草原の維持管理と景観保全など様々な効果を生むと期待されています。地域の“循環”の根幹を担ってきたあか牛を再び“循環”の輪の中に戻し、次の100年を紡いでいきます。

黒川温泉 一帯地域コンポストプロジェクト※

旅館の生ごみを使ってコンポストで堆肥を作り、堆肥を使って農家が野菜を育て、その野菜を旅館で提供する。このような理想的な資源循環をすることで、環境負荷の低減や食材に対する安心感の醸成、さらには地元産品の地域内流通システムづくりや、循環野菜としてのブランドづくり、黒川温泉自体のブランドのプレファレンス向上を実現します。

「入湯手形」売り上げの 1%を環境保全へ還元※

黒川温泉周辺の地下水を豊かにすることは筑後川の水を豊かにすることでもあり、そしてその水はまた温泉として戻ってきます。この考えに基づき、入湯手形の売り上げの一部を環境保全に活用します。お客様が入湯手形で湯めぐりを楽しむほど温泉の維持につながるという循環を実現し、温泉という黒川にとって重要な自然資源の保全を目指します。

※現在実証実験中の取り組みです。黒川温泉の取り組みの詳細はこちらからご覧ください。 黒川温泉2030年ビジョン



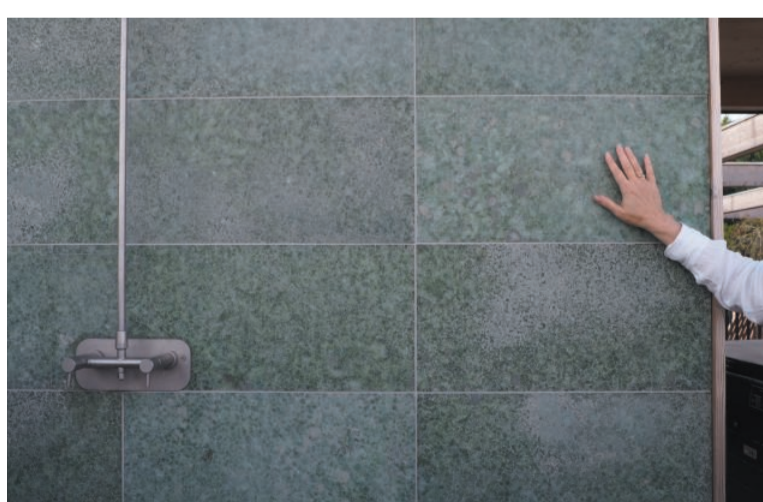
ボーンホルム島の サステナブルの ショーケース

欧州で最もサステナブルな島のホテル

Hotel Green Solution House (Hotel GSH) は、欧州で最もサステナブルな島であるデンマーク・ボーンホルム島※のショーケースとして、全てがサステナブルを意識して作られました。彼らはその建設・運営を通して、島の安定的な雇用実現に貢献し、また島の中での経済循環を促進しています。

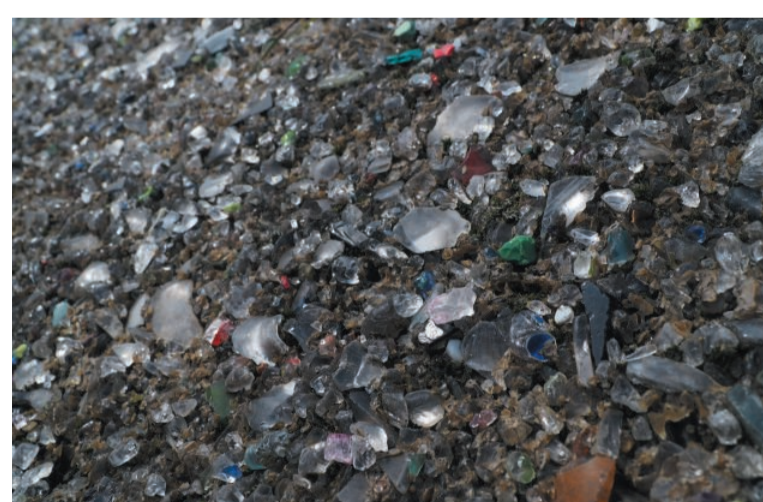
「サステナブルなホテル」としてのブランドを徹底して確立することで、彼らは持続可能な島の実現を目指しているのです。

※ボーンホルム島は、EU RESponsible Island Prize 2019にて第1位を獲得。



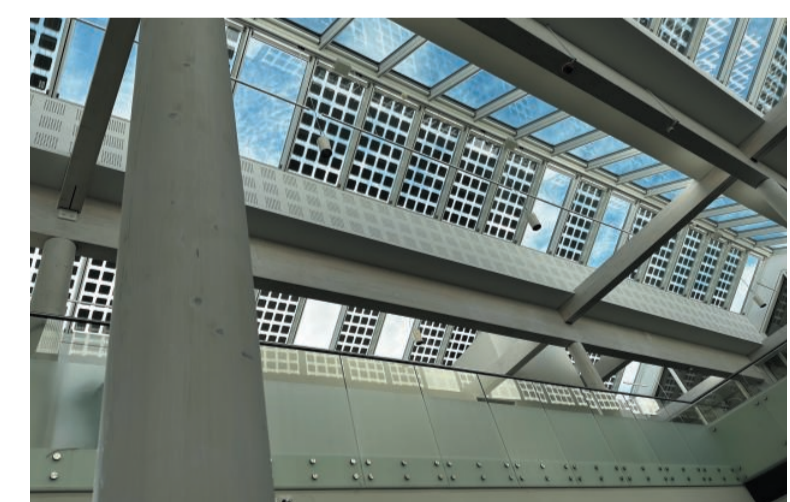
外部のサステナブル 先進企業との関係性構築

Hotel GSHの建物には様々な環境に優しい素材が使用されていますが、Hotel GSHは設計・建設の段階から、それらの素材を扱う企業と協力関係を築いてきました。その結果、Hotel GSHには現在コンベンションの宿泊客だけでなく、Hotel GSH自体の視察を目的とした宿泊客も多く訪れて、彼らがショルダーシーズンの集客を支えています。



サステナブルなホテルシステムに 地元産業も組み込む

ボーンホルム島はクラフトの島として有名ですが、Hotel GSHの庭の小道には一人のガラス吹き職人から譲り受けたガラスの欠片が敷き詰められています。またホテルの食事には地元の食材が多く使用されています。Hotel GSHは、地元産業との連携によってサステナブルなホテルを実現しているのです。



エネルギーの自給自足

建物に入っただけで、天窓に設置されたソーラー発電パネルが目に入ります。また他にも、古いプールを改装して熱交換用の温水貯水池としたり、生ごみをバイオガスに変換したりと、可能な限りエネルギーを自給自足するシステムを構築しています。このような取組を通して島内でのエネルギー自給率を高めることは、島の持続可能性のためにも重要です。

環境対策を通して実現する 持続可能な地域の未来

観光地として世界から選ばれるためには、環境対策を行っていることが不可欠になりつつあります。そして環境対策は、ブランド化や付加価値向上につなげることで地域としての持続可能性を高める重要な手段の一つにもなり得ます。

日本の温泉地は、これまでも環境に優しい様々な取り組みを行ってきましたが、それらの中には無自覚に行われてきたものも多く存在します。またここ数年は「SDGs」「サステナブル」に関する取り組みを積極的に進める地域が増えていますが、それらをどのように地域の強み、持続可能性につなげていくかが重要です。

温泉まちづくり研究会では、現在日本の各温泉地で行われている取組を深掘りし、ブランドメッセージとしてどのように伝えていくのか研究していきます。

道後温泉

- ◎ 道後温泉事業施設の設置及び管理に関する条例による給湯管理
- ◎ 18源泉の集中管理(化石燃料削減)
- ◎ 道後油田化プロジェクト(使用済み天ぷら油(廃油)回収活用)
- ◎ 食品ロスを削減する「3010運動」
- ◎ アメニティのプラスチック削減
- ◎ 持続可能な道後温泉協議会



草津温泉

- ◎ 「サステナブルツーリズム草津」の看板
- ◎ 温泉を活用したCo2削減(温水給湯、道路融雪、公共施設暖房)
- ◎ 魚の住める環境の保持(温泉排水の中和)
- ◎ 志賀高原ユネスコエコパーク、希少生物保全
- ◎ 街なみガイドライン(木造や自然素材を活用した部材を推奨)



阿寒湖温泉

- ◎ 前田一歩園財団を中心とした自然保護
- ◎ 住民によるマリモ保護・外来種駆除
- ◎ アイヌの自然との共存の精神をベースとした自然・文化体験(アドベンチャーツーリズム)
- ◎ ゼロカーボンパーク登録(国内4番目、道内初)
- ◎ ゼロカーボン移動手段の活用推進
- ◎ 温泉熱利用設備の導入
- ◎ 地元の水のPRとマイボトル推進



有馬温泉

- ◎ 炭酸水を活用した『有馬サイダー』の製造販売
- ◎ ふるさと納税を活用した地域の観光資源の保護育成
- ◎ 電気自動車の導入活用
- ◎ eスポーツの推進によるコミュニティ拡大
- ◎ 有馬山椒等の特産品を活かしたテロワール旅推進
- ◎ ユニバーサルの日設定・障害者雇用実習推進
- ◎ 竹を使用した脱プラアメニティの使用推進



黒川温泉

- ◎ 黒川温泉2030年ビジョン「世界を癒す、日本里山の豊かさが循環する温泉地へ」
- ◎ 黒川温泉一帯地域コンポストプロジェクト
- ◎ 次の百年を作るあか牛“つぐも”プロジェクト
- ◎ 入湯手形のリニューアル(売り上げの1%を環境保全に還元)
- ◎ 次世代リーダープログラム「黒川塾」



由布院温泉

- ◎ 安心安全な宿づくりを目指した「ゆふいん安心の宿宣言」
- ◎ 由布院の自然を感じられるガイドツアー
- ◎ ニューモビリティ活用
- ◎ ゆふいん建築・環境デザインガイドブック
- ◎ 豊かな水環境創出ゆふいん会議(水環境の保全再生に関わる普及啓発・実践活動)



鳥羽温泉郷

- ◎ 鳥羽で学ぶSDGsプログラム
- ◎ 各観光事業者の環境に配慮した取組
- ◎ 海藻JAPANプロジェクト
- ◎ 海女文化の保全(海女トーク)
- ◎ エコツーリズム
- ◎ ゴミの削減(漂流・漂着ごみ削減、鳥羽市リサイクルパーク)

